



2026春闘

JR東日本で働く社員から
東日本ユニオンに寄せられた声 Part 5

「変革 2027」で何が実現したのか！？

- コストダウンをやり過ぎた事で輸送障害を発生させてしまっています。作業ダイヤにとられない働き方と言いつつ、今ある作業ダイヤに上乘せされているだけです。超勤ありきの企画業務で社員が幸せになるわけがありません。
- 望まない担務変更と転勤により「変革 2027」で現場社員みんなが被害者です。輸送障害も頻発しています。安全はどこに行ったのでしょうか。
- 効率化は重要ですが、機械化、システム化では補えない点があることを改めて認識する必要性を感じます。
- 「変革 2027」の全体像にある、仕事の高度化・活躍フィールドの拡大・お客さまのより近くでの創意発揮によって、社員・家族の幸福は実現されたのでしょうか。
- 会社の都合で転勤をしてきた仲間を見てきました。本人の希望ならまだしも、会社にとっての駒合わせでの施策にしか見えません。実際、会社を去る人が増えたのもこの施策であると認識するべきです。
- 何でも屋的な発想や、それに基づく施策の展開は現場のチカラを削いでいます。
- 職場の長が目的も語れない、意識付けもできないような配置替えで、仕事を一から覚えなければならずとても苦勞し、施策に怒りを感じました。多くの人が、職場が変わり、仕事も変わり、家族のもとを離れて大変な思いをしています。「ジョブローテーションは発展的に解消する」の一言だけで済まされるのは許されることではありません。
- フレックスは実態に合わない。うまくいっていたものを、わざわざうまく回らなくさせられたという感覚です。顔を合わせて引継ぎができないと不安になります。
- 業務融合は何のためにやっているのでしょうか。月1回の改札業務では、たまに行っても社員のためにもお客さまのためにもなりません。
- 社員・家族は幸福になっていません。施策に振り回されっぱなしです。
- 結婚したばかりの同期が自宅から遠い職場に異動し寮生活になってしまいました。会社は社員の幸せを考えていないと感じます。
- 「変革 2027」で何か成果などあったのか？良かったのか？担った側に説明もありません。みんなが疲弊しきっています。
- 異動し仕事で苦勞している方、慣れない環境で身体を壊してしまい休養してしまう方の話をよく聞きます。それならと退職してしまう人が後を絶たないのが今の会社実態です。

安全とJR労働者の暮らし、働きがい、賃金は置き去りにされている！